

実質化された人・農地プラン

注: 本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
広島市	丸畠(丸畠、丸畠沖、入野)	令和元年12月20日	

1 対象地区の現状

①地区内の農地面積	10.3 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の農地面積の合計	8.1 ha
③地区内における70才以上の農業者の農地面積の合計	2.1 ha
i うち後継者未定の農業者の農地面積の合計	1.4 ha
ii うち後継者について不明の農業者の農地面積の合計	0.0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある農地面積の合計	4.8 ha
(備考) ・農地を農地として使用。荒地にはしたくない。今回の耕地整理(圃場整備)が現実化することを切に願っている。シカ、イノシシなど有害動物の対策。水・土砂流入、防獣柵倒壊など、水害に強い農地を希望。 ・専業農家として畑作(露地、ハウス)と稲作を行ってきたが、昨年7月の大雨のため、今回耕地整理対象の田・畑は浸水・土砂流入、防獣柵倒壊などの被害を受け、現在止むを得ず休耕状態となっている。もし耕地整理が現実化すれば護岸工事をしっかり行い、水害に強い農地となることを切に希望する。また、イノシシなどの獣害にも悩まされてきたため、その対策もしっかり行う必要がある。農地としての条件に恵まれたこの地域の田畑を守り、農業が活性化するために、今回の耕地整理が現実化することを切に願っている。 ・この集落には、65歳以下で農業に従事する人が皆無に近い。現時点では、かつて耕作していた人も高齢者や故人となり、耕作されない田畑が多くなった。残ったものも年をとり、田畑を荒廃から守るために他の人に草刈を依頼し、草刈料を支払って管理している状況だ。この度の圃場整備の話は願ってもないことだ。ただ、地主にとって負担金が必要な問題となる。以前の圃場整備の時の様に、負担金が多額になると、高齢者が大多数を占めるこの集落では、足並みが乱れかねない。暗礁に乗り上げてしまう。最小限の負担金で(できれば負担金なしで)この事業を遂行できることを大いに願う。この集落の人々が心を一つにして成功させ、外部の力も借りて、農地が農地として活用される輝ける未来にしたいと切望している。お願いします。 ・まず第一に、早急に農地の集約経営を進めていただきたいと思います。計画振興の状況によっては、各戸負担金が発生するとのことですが、現時点においても草刈りなどの維持管理費は生じている事実があります。計画実行後の経済的なデメリットとメリット(損益収支)、メンテナンスの負担、将来の地権者の権利等お示しくださいれば、もう少し具体的に実感できると思います。できる限り個人負担は無いほうが良いと思いますが、荒廃した土地は残したくありません。	

2 対象地区の課題

安佐北区白木町志路地区では、圃場整備農地を中心に志屋機械利用組合（昭和53年設立）や岩重農園（水稻の認定農業者）による水稻の生産活動を通じ、また、農地の利用集積を行いハウスでの集約栽培を行う活力農業者や野菜の認定農業者を受け入れ、長年にわたり地域の農地を守ってきた。しかし、組合員の高齢化や不在地主の増加、さらに水稻の価格低迷や鳥獣被害の増加など、営農活動の継続に向けて多くの課題が顕著になってきたことから、地域の農業や農地の保全、担い手確保について地域において改めて考える必要が生じている。一方、丸島地区においては、地区内の農地のうち約1.2ヘクタールを2人で耕作（水稻）するに留まり、保全管理のための除草作業に苦慮している。平成29年より圃場整備事業の要望があり、地域での話し合い活動が進められている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

未整備地区の丸島・丸島沖・入野地区については、農地中間管理機構関連農地整備事業等により圃場整備に取り組み、原・奥谷地区の担い手である岩重農園、(株)田邊農園の規模拡大用地として集積して貸し付ける。

（参考） 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	岩重 隆弘	水稻 水稻受託 切花 野菜	0.0 ha	水稻 野菜	1.8 ha	
認農 法	田邊農園株式会社 代表取締役 田邊 圭一郎	葉物野菜	0.0 ha	葉物野菜	3.0 ha	
計	2 経営体		0.0 ha		4.8 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

株式会社田邊農園は、令和2年度には原・奥谷地区の農地をさらに約0.5ヘクタール借り受け、ハウスを増設する計画である。
その後、丸島地区の基盤整備が整い次第、農地中間管理事業を活用して利用集積した土地を借り受け、さらにハウスを増設して規模拡大する意向である。

岩重農園は、水稻を主体とした経営を行っているが、丸島地区の基盤整備が整い次第、農地中間管理事業を活用して利用集積した土地を借り受け、規模拡大する意向である。

（参考）農地の貸付け等の意向

農地の所在地(地番)	貸付け等の区分(m ²)		
	貸付け	作業委託	売渡
丸島・丸島沖・入野	43759.91	0	8776.00
計	43759.91	0	8776.00